

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990200046		
法人名	株式会社アップワード		
事業所名	大和高田グループホームまほろば		
所在地	奈良県大和高田市曾大根2丁目9番18号		
自己評価作成日	平成27年7月7日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiqokensaku.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2990200046-00&PrefCd=29&VersionId=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成27年7月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人それぞれ」を大切にしながら、できることはおこなって頂けるように支援し、生活感を無くさない様、暮らしの継続を目指しています。外出の機会をできる限り多くつくり、楽しむことを大切にしています。ご家族様とも連携し、アットホームな雰囲気の中で、入居者様を支援して頂ける様に心がけています。オープンで地域の方との連携のとれるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年2年目を迎えるホーム。職員は「一人ひとりの思いを尊重」という理念を大切に、利用者一人ひとりの個別化、そしてどんな小さな事でも無理強いないを常に頭に置き、より家庭に近いホームを目指している。昨年は立ち上げの為に労力を要したが、今年は少しゆとりもでき、地域との連携も力を注いだ。ホームでは食事や買い物、花壇で花や野菜など職員と一緒にやっている。看取りも実施した。利用者が常に心地よい暮らしが出来るホームを目指し、日々切磋琢磨、模索しながら、地域の方々と共に成長したい、そんな思いに溢れたホームである。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域」の中で楽しく暮せるアットホームな家づくりを目標に会議などで共有しています。	「一人ひとりの想いを尊重。住み慣れた地域で安心して安心して自分らしく笑って過ごせるおうちを目指す」。もともとあった理念を、前回の外部評価で指摘を受けた「地域密着型の意義」を踏まえた内容の理念に作り直した。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年近隣の自治会より夏祭りに招待いただき、参加しています。秋祭りには子供会のご協力でホーム駐車場までお神輿で入っていただき目の前で楽しませていただきました。	前回の外部評価で「ボランティアの受け入れを進めている」との話だったが、現在は手品、日本舞踊、三味線等のボランティアが来て下さり、利用者を楽しませてくれると共に、ボランティアの発表の場としても利用されるようになった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで民生委員の方への説明や地域の方の訪問に対応し質問にお答えしています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 奈良市登大路町36番地	ホームの運営状況や行事・活動・入居者様の生活状況の報告を行い意見をいただいています。	市の担当者又は地域包括支援センター職員、民生委員、他グループホーム管理者、利用者が参加しているが、家族の参加は今のところない。意思表示ができる利用者が多く要望などを聞き、家族には家族会開催時に運営推進会議の報告と次回の開催案内や内容を伝え、質疑の要件を予め聴いて運営推進会議で提案している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの方のにも参加していただき情報交換の場を設けています。保護課の方との連携も図っています。	地域包括支援センター主催の「地域の連携を深める」を目的とする会議が今年度から発足した。その会議に参加し、市と共に他グループホームとも連携を図ろうと努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、その後施設において内部研修を行い職員間で周知理解を深めています。身体拘束虐待防止委員会による研修も行っています。	基本は拘束しないとしているが、利用前から拘束を要する利用者に対しては、家族の意向で入居後も拘束が続いている。また帰宅願望が強い方がいる為、玄関ドアは常に施錠し、2階エレベーターは暗証番号で対応している。	利用前から家族の意向や安心感で拘束を經常化しているが、それが利用者本人が抑圧感のない自由な暮らしができてきているかを見直し、職員全員で話し合うことが望まれる。また帰宅願望者に対しては、職員の見守り等の工夫を話し合い、開放的なホームを目指す取り組みを期待する。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待防止委員会による研修も行っています。職員間で周知理解を深めています。また、管理者は日常的に職員とのコミュニケーションを図り、状況の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、施設にて資料の回覧など職員の理解に努めています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定等は家族様に説明を行い、質問にもお答えしご理解頂ける様努めています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アットホームな雰囲気面で面会時にはお声を掛けさせて頂き、ご意見ご要望を話しやすい環境に努めています。	利用者は比較的元気な方が多いので本人から要望などを聴く事が多い。家族からは訪問時に聴いたり家族会の開催時に要望や意見を聴き、それを運営に反映させている。	「外部評価」の家族アンケートについて、全ての方が「外部評価結果が公表されているのを知らない」との回答結果であった。利用開始時に外部評価の説明をしているが、周知できていないと思われる。家族会でも周知を図り外部評価結果を検討し、意見を運営に活かす取り組みを期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全体会議を行い、職員間の意見交換の場を設けています。また、個別にも意見や相談がしやすい環境づくりに努めています。	管理者は職員とともに日常の業務を行い、常に職員と接しており気兼ねなく意見など話せる環境が出来ている。以前は介護日誌等の記録が負担になっていたが、職員が話し合い記録法を改善し業務が行い易くなった。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の勤務状況・職員個々の実績や努力を把握し働きやすい職場環境が整備できるように努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、職員の知識や技術の向上に繋がる様に努めています。内部でも各委員会による研修を行っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に参加していただき、意見や情報の交換ができる様にしています。また、他市のグループホームの方との意見交換なども行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境が変わることによる心身の負担を最低限に抑えられるように面談に伺いお話しをし、安心してご入居頂けるように努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご見学・ご相談の際より話しやすい雰囲気作りに努めご家族様の思い、不安など受け止め、不安が無いように努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの生活上の希望やケアの方向性を話し合い、状況に応じて必要なサービスの情報提供を行っています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人のペースにあわせ、自分らしく暮らしの継続が行える様に支援しています。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間にこだわらず、ご来訪していただきやすい雰囲気作りを心がけ、ご本人の日々の様子など話せる関係作りをしています。行事にも参加いただき入居者様と楽しい時間を過ごしていただける様に努めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外の面会者にも来訪しやすい雰囲気作りを心がけています。	利用開始時に家族から生活歴を聴く際に馴染みの関係を重視して聴くようにしている。お正月やお盆に家に泊ったり、他県の娘宅へ孫の誕生のお祝いに駆けつけたり、ホームは利用者の馴染みが途切れないよう支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の人間関係も様々ですが、職員が仲介役として良好な人間関係が築けるよう努めています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、再入居をご希望される状況も踏まえ、居室の空状況など声かけさせていただき、変わらない関係作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの希望や思いを日々会話等から聞いたり、気づけるように努めています。困難な場合はご本人の様子や表情・言葉を見逃さずご家族様と相談し考えています。	前回の外部評価の課題であった「アセスメント」をADLや病歴中心のものから「やり甲斐、生き甲斐」を中心とした書式に変更した結果、利用者の好きな事、やりたい事が明確に分かるようになり、それが支援に活かされるようになった。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からご本人・ご家族様・各サービス事業所から情報収集を行い、職員間で情報共有に努めています。入居後も、ご本人・家族様との会話を通じて情報収集しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケア記録から状態の把握に努め、定期的にケアカンファレンスを行い確認しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリング・ケアカンファレンスを行い、職員・かかりつけ医などと話し合い計画に反映するように努めています。	前回の外部評価課題であった「ケアプラン」をADLや病歴だけではなく、やり甲斐、生き甲斐をも付け加えるようにしている。利用者の支援内容を考える際の素材となると共に、結果として利用者がより活き活きと生活されるようになった。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを作成し日々の様子やケアの実践等記録し、職員間での共有を図り3ヶ月ごとの介護計画の見直しを行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に個別のサービスが行えるように管理者・計画作成担当者・ケア-職員との連携を図り努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日近隣スーパーへ車で買い物に出かけている。ボランティアの方に来ていただき地域の交流を楽しんでいる。行事では、近隣の大型スーパーにウィンドショッピングに出かけています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診で健康管理を行っています。必要に応じ希望する医療機関の受診・入院等の支援を行っています。	殆どの利用者が利用開始と共にホームの提携医がかかりつけ医となる。内科は1階、2階其々2週に1回往診がある。従来のかかりつけ医を持つ利用者は家族が付き添う場合もあるが、職員も付き添う。家族との連絡、報告も密に行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置しています。日々の健康管理・異常の早期発見に努めています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と連携を図り面会が重ね、入居者が安心して療養できるよう努めています。往診医も含め退院後のホームでの生活を検討しています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは実施しています。往診医とご本人・ご家族と相談し連携していきます。	終末期になった時は、「看取りに関する指針」そして「同意書」を3部作成し、家族、提携医師、ホームが其々持ち、三者が連絡を密に取りあい看取りのケアに対応している。ホームは現場従業員の支援のスキルを上げるため、研修も常に行っている。昨年は1件、今年は2件のターミナルケアを実施した。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会などで職員が周知できる様その都度おこなっています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	年二回消防の立会い・自主訓練にて避難訓練を実施しています。火災・災害に応じ昼夜を問わずスムーズに避難できるように努めています。	年2回昼間の避難訓練を行っている。今後は夜間を想定した訓練も計画している。飲料水等の備蓄もしている。	運営推進会議等で地域の方々と災害について話し合い、いつ訪れるかもしれない災害に対して地域との連携を図る取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に行う会議にて職員が常に意識を持つ様に努めています。	利用者の尊厳を大切にする基本は言葉遣いであり、特に気を付けている。なれ合いの対応にならない様研修で徹底している。軽介護度の利用者が多いので、お風呂も一人で入りたいという人も多く、そっと見守る程度の介助を実施している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に会話を持つ様にしご本人の思いや、要望を確認出来る様努めています。意思表示が困難な方へは表情・言動・行動で理解出来る様努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう個々のペースにあわせて対応するように心がけています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容に来て頂き、個人の希望に沿ってお願いしています。今までの生活を継続するため毛染めなども行っています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居様のご要望を聞いたり、個々に沿った調理の内容も工夫しています。職員と一緒に準備し食事を楽しみ、後片付けをしています。	本部で食事メニューを作成しているが、地元の方々から野菜を貰ったり、利用者のリクエストに応えるため、ホームで献立を立て直している。食材を利用者と買いに行き、一緒に作っている。外食のリクエストも多く、近くのお店へ食べに出掛けることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりに合わせた量を提供し、食事量・水分量の記録をつけ把握する様にしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、付き添いを行っています。必要な時は、歯科往診に来て頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し定期的に声かけや介助を行い、失敗を減らす様になっています。出来る限りオムツに頼らずトイレにて排泄出来る様努めています。	比較的元気な利用者が多い為、リハビリパンツ利用者も多くほとんどが自分でトイレに行っている。そんな利用者に対しては職員でカンファレンスし情報を共有し、さりげなくトイレ誘導している。中にはリハビリパンツから布パンツへ戻った事例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便を記録し把握、水分補給を促し、便秘の改善に努めています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に毎日、夕方から入浴して頂いています。個々の体調や気分に合わせて個別にゆっくりと入浴して頂いています。	基本的に月曜日～土曜日毎日16時頃から入浴時間をとっている。希望者は日曜日も入浴ができる。軽介護度の利用者が多い為、ほとんどが一人で入りたいという事で職員はそっと見守り介助をしている。季節に応じてゆず湯等を楽しむが、入浴剤が人気である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて休憩して頂き、就寝時間も個々に合わせて入眠して頂いています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情報を綴り、職員が周知し内用を把握できる様に努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活リズムを整え、個々に合った役割を職員と一緒にしています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や買い物に行く機会を持つ様にしています。個々のご要望を出来る限り支援できる出来る様努めています。ご家族様との外出も自由に出掛けて頂いています。	季節ごとにお花見やドライブ、遠足など出かけている。日々はホームで育てている野菜に水やりをしたり、外のベンチで寛いだり、体操したり、時には夕涼みをしたりしている。利用者の希望で近くのスーパーにウィンドウショッピングや外食にも出掛けている。	外出支援をしているにも関わらず、家族アンケートの外出支援の回答が思わしくない。家族にもホームの外出支援の様子を伝える等の工夫をし、共に共有し合える環境作りをされるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族様に管理をして頂いています。ホームでは小口をお預かりし管理し外出の際、職員見守りを行い支払い等も行って頂いたりします。ご希望により小額ですが所持されている方もおられます。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればホームの電話を使用して頂いています。ご家族様の電話を取り次いだり、郵便の受け取りなども支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・リビングにソファやテレビを置き、ゆっくりとくつろげる雰囲気而努力しています。大きな窓から外を見たり壁に飾りつけをし季節感を感じられるように努力しています。	リビングは西側にあり、大きな窓から光が入りとても明るい。テレビ台の高さやテーブルの配置を工夫して利用者同士、程良い距離で寛げる配慮をしている。トイレも2部屋に1つ配置され、利用者はいつでも近くのトイレに自由に行ける。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで過ごす時間の中で気の合った方同士の席の配置やソファを置き配慮しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人ご家族様と相談し居心地良く過ごせる様に好みの物を持参して頂いています。	7帖の洋室にエアコン、チェス、ベッド、布団、洗面所が備え付けられている。利用者は思い入れのある物を持ち込んで、快適な空間で過ごしている。中には携帯電話を持ち込んで家族とのコミュニケーションを日々楽しんでる利用者もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリを中心にそれぞれが出来る事を行なって頂き自立支援をしています。廊下には手すりの配置や各場所には表示や居室には表札を揚げわかりやすくしています。		